



## ありのままがあたりまえの学校を目指して

本校と明石商業高校の間の緑道の紅葉が目に見え鮮やかな季節になりました。暦の上では立冬が過ぎ「冬」をむかえ、22日(土)には二十四節気の小雪(しょうせつ：冬に入ったがまだ雪が少ない)に入りました。朝晩だけでなく昼間の気温も下がっています。手洗い、うがい、感染症防止に留意し、お互いに健康管理に気をつけましょう。

さて、先日他市での人権学習会で『性同一性障害と「SOGIE・LGBTQ+」』についての講演会に参加する機会がありました。「ありのままがあたりまえのまちづくり」や「ありのままがあたりまえの学校づくり」について考える一日になりました。その内容をお伝えすることで皆さんが人権について考えるきっかけの一助になれば大変嬉しいです。



SOGIE は

- S O 【Sexual orientation (セクシュアル オリエンテーション) どんな性を好きになるかならないか】
- G I 【Gender Identity (ジェンダー アイデンティティ) 自分はどんな性だと感じるか】
- G E 【Gender Expression (ジェンダー エクスプレッション) どんな性を表現するか】 のことです。

### 性同一性障害と「SOGIE・LGBTQ+」

でも、全ての人が同じ好みや同じ捉えをするわけではありません。多数派の人とは異なる SOGIE の人も1割弱存在すると言われていて、それらの人を LGBTQ+ と表現しますが、それが少数派であっても、その気持ちや好みは尊重されるべきであり、安心して自分らしく暮らせることが求められます。

ここ数年、テレビや新聞で「LGBT」など多様な性についての情報が取り上げられる機会が増えてきました。「性のあり方」は、一般的に言われる「男性」「女性」という2通り以上にもっと多様であるという考え方が広がってきています。出生時に割り当てられた性別、好きになる性、自認する性、表現する性などの組み合わせによって、一人ひとりの性のあり方は異なります。異性が好きな人、男女で結婚する人、性別に違和感を持ったことがない人なども含めて、性の多様性はすべての人に関わると言えます。明石市はそんな LGBTQ+ を含む誰もが互いを尊重し合える「ありのままがあたりまえのまち」の実現を目指しています。世界中で、今この SOGIE に対する相互理解や LGBTQ+ に関する差別の解消が進んでいますが、国によって人によってまだ格差が大きいのが現状です。大切なことは一人ひとりが他者を思いやる気持ち、また様々な立場や状況に共感できる心を持つことだと思います。それが広がれば、性の多様性に対する意識だけではなく、社会に残る様々な差別が解消されていくと私は思います。

日本の学校でも生徒名簿が男女別から男女混合の名簿に変わりました。また高校受験の願書からは性別の欄がなくなりました。人を認識する際に、男か女かという枠付けが必要でない社会に変わりつつあります。学校では、性差により分けられていた制服についても変わりつつあります。本校でも令和4年の4月から女子もスラックスが着用できるようになりました。これは性の多様性の問題だけではなく、健康面なども考慮しています。多様な人の在り方を認め合う社会で、今までの「あたりまえ」についてもう一度見つめ直し、「ありのままがあたりまえの学校」を一緒につくっていきましょう。